学校へ行こう

■ 市木小学校

自分たちで育てた花を前にして撮影。

地域の伝統と自然を守る

豊かな体験活動を教育に生かしています。

今回紹介するのは串間市立市木小学校（上園昭智校長・全校児童24人・職員8人）です。

自然を守る活動

市木小学校では自然を守る活動に取り組んでいます。

毎年1学期に行う市木中学校との合同歓迎遠足では、1時間以上歩いて、渚百選にも選ばれた美しい石波海岸を目指します。遠足の後半は海岸を全員でごみ拾い。「美しい自然を自分たちで守っていく」という思いを育てています。また石波海岸はアカウミガメの産卵地でもあり、毎年8月には子ガメの放流会を実施。カメたちが再びこの海岸に戻ることを祈り、地球環境や自然を守る大切さを感じています。

自然の中での体験活動

体験活動にも取り組んでいます。「市米田」と名付けた学校近くの田で毎年田植えと稲刈りを体験。8月の暑い中での稲刈りは、保護者の手助けを借りながら一生懸命作業。収穫したお米は9月に開催する「おにぎりまつり」で自らおにぎりを握り味わいます。苦労して収穫したお米の味は格別です。

自分の思いを表現する活動

昨年は課題に沿って自分の考えを書く活動に取り組みました。結果、自分の意見を主張できる児童が増え、宮崎日日新聞の「若い目」に全児童の作文が掲載されました。今年は自然を守る活動や体験活動を生かし、「堂々と豊かに」意見を表現できる児童を目指して取り組んでいます。

「素直で元気、みんな仲がいい」と子どもたちの様子を話す上園校長。「今よりさらに何でも一生懸命で、チャレンジ精神を持った気持ちの優しい子に育ってほしい」と願っています。

地域の伝統を守る

子ども柱松

市木地区に300年前から伝わる「市木柱松」。無病息災、五穀豊穣を願う十五夜の行事で、一時途絶えていたものを地域の方々が復活させました。

この行事に市木小学校の子どもたちも「子ども柱松」として参加。紙コップとゴムボールで作った「手松」を柱松の先にあるカゴに向かって投げいれます。柱松も子どもたちで立ち上げます。3班に分かれリーダーの合図に従って柱松を立ち上げていく作業は、全員のチームワークが大切です。

地域の祭りに参加、体験することで「ふるさとへの思い」が子どもたちの心の中に深く根ざしていきます。

図書館に行こう

【今月の新刊】

月の恋人（道尾秀介）文学のレッスン（丸谷才一）柚子の花咲く（葉室麟）私の神様（小手鞠るい）鈴蘭（東直己）カムフラージュ（有吉玉青）ペンギン・ハイウェイ（森見登美彦）影法師（百田尚樹）キング&クイーン（柳広司）薔薇を拒む（近藤史恵）明日の空（貫井徳郎）貴族探偵（麻耶雄嵩）いまも、君を想う（川本三郎）幕末銃姫伝（藤本ひとみ）あんちゃん（北川亞以子）少女外道（皆川博子）小さいおうち（中島京子）龍馬の油断（津本陽）百姓探訪（立松和平）忍び音（鈴木英治）トリプルA（黒木亮）神の手（久坂部羊）民王（池井戸潤）プロムナード（道尾秀介）初陣（今野敏）鬼九郎孤月剣（高橋克彦）依頼人（結城五郎）彼女のしあわせ（朝比奈あすか）サンザシの丘（緒川怜）遺書配達人（森村誠一）木暮写真館（宮部みゆき）道徳という名の少年（桜庭一樹）死ねばいいのに（京極夏彦）私たちには物語がある（角田光代）老いらくの恋（佐藤雅美）桃色東京塔（柴田よしき）なりひらの恋（三田誠広）

● **問い合わせ先**＝串間市立図書館☎72－1177
● **開館**＝午前10時～午後6時
● **休館日**＝毎週月曜日

夜行観覧車

湊　かなえ／著

父親が被害者で、母親が加害者―。高級住宅地に住むエリート一家で起きたセンセーショナルな事件。遺されたこどもたちは、どのように生きていくのか。「告白」の著者が描く家族小説。「小説推理」連載に加筆・訂正し単行本化。

おれのおばさん

佐川　光晴／著

高見陽介、14歳。父が逮捕され、母と離れ離れになったら、未来を拓く「出会い」が降ってきた。児童養護施設に暮らす中学生たちの真っ向勝負の「人生との格闘」、体を張って受け止めるおばさんや大人たちの生きざま…全編を貫く潔さが胸に迫る。

7月のテーマ展示

「自由研究」

もうすぐ待ちに待った夏休みです。旅行やレジャーと楽しい計画を立てていることと思います。しかし学生の皆さんには忘れてはいけない「宿題」があります。8月末に慌てないよう、早い時期から準備して楽しい夏休みを過ごしましょう。

交流員レポート

第8代国際交流員ジュリアンの日本体験記

やわらかい草

気温も上がり雨も降り出し、本格的に梅雨が始まりましたね。なんて不愉快な季節なのでしょう。四季の中にすら入ってない季節。無くなってもだれも文句は言わないでしょう。そんな梅雨でも雨の後の自然はいいですね。緑が一段とはっきりして生き生きして見えませんか？

ニュージーランドでは芝生が多いのでやわらかい草の上を裸足で歩いたり、寝転がって一眠りしたりするのが大好きです。今串間の草が、きれいな緑で生えているので、いつものように寝転がったら針で刺されたかと思いました。日本の草はチクチクしているのですね。これを知ってから芝生の上で寝転がる夢を良く見ます。自分の夢を叶えてくれる草原は串間に存在しないのでしょうか？

ニュージーランドの夏は乾燥していて、串間のようなジメジメした暑さはありません。日陰に入ればすずしいです。快適な暑さなのですが、水分不足で草が枯れて茶色になってしまいます。この時は串間の草のようにチクチクします。これを防ぐために、みんな芝生に水をまきます。水分さえ与えればまた、緑の気持ちいい草になるのですが使う水の量はすごいです。ところが、ニュージーランドでは使った水の量でお金を取られるのではなく、敷地の大きさによって決められた金額を払います。草を大切にする文化があるからこそこんなシステムがあるのです。

やわらかい草を見つけたらぜひ靴を脱いで芝生の良さを実感してください。とても気持ちいいですよ。

草はやっぱり気持ちがいい！

This month's expression
今月の表現

○○ is fantastic!

○○は素晴らしい

Example:Soft grass is fantastic!

例：やわらかい草は素晴らしい！